

## 研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB	アジア開発途上国における計画段階での環境評価の導入に関する研究-タイ王国を対象として-				
研究テーマ (欧文) AZ	Study on Introduction of Environmental Impact Assessment at the Planning Stage in Asian Developing Countries -Case Study of Thailand-				
研究氏 代表 者	カタカナ CC	姓)キシタ	名)、ミズオ	研究期間 B	2005 ~ 2007 年
	漢字 CB	木下	瑞夫	報告年度 YR	2007 年
	ローマ字 CZ	Kishita	Mizuo	研究機関名	明星大学
研究代表者 CD 所属機関・職名	木下瑞夫・明星大学理工学部環境システム学科・教授				
<p>概要 EA (600 字～800 字程度にまとめてください。)</p> <p>本研究は本研究グループとタイのマヒドン大学との共同研究である。研究は2部に分かれる。</p> <p>(1)本研究グループとマヒドン大学との計画段階での環境評価(戦略的環境アセスメント:SEA)に関するワークショップの開催</p> <p>マヒドン大学と「タイにおける計画段階での環境評価、及び戦略的環境アセスメント」に関するワークショップを 3 回実施し、タイにおける SEA 実施状況、及びタイにおける環境アセスメントの課題について情報の提供を受けた。本研究グループ側は、日本や欧州における SEA 実施事例を報告し、タイにおいて SEA を実施した場合の意義、SEA 実施可能性、SEA のあり方に関する議論を行った。</p> <p>ワークショップの結果、タイにおいては環境に関する紛争が多く見られ、計画段階からステイクホルダーの参加を含めて、代替案を作成し、環境評価を行う戦略的環境アセスメントは、環境に関する紛争の防止に効果があるのではないかという仮説に達した。</p> <p>(2)サムットソクラーン県アンパワ地区における実験会議の開催</p> <p>そこで、実際に計画策定段階で、代替案の作成、その環境への影響の評価という戦略的環境アセスメントの要素を加えながら、実験的に参加による計画の策定を行った。この実験会議が、実際にこれらの戦略的環境アセスメントの要素を加えた計画策定過程は、紛争の防止に効果があるのか、参加を行う場合、どのような点に留意すべきかを明らかにするためであり、会議の前後の参加者へのアンケート調査、議事録の分析などによる分析を行った。会議は:会議 A:計画策定の早期段階からの参加、会議 B 計画策定の遅い段階からの参加、を比較する形で行われた。</p> <p>研究の結果、以下のような知見が得られた。</p> <p>計画策定段階の初期段階からの参加は、参加者の負担が多く、明確な代替案やデータが提供できないが、以下のような場合は、遅い段階からの参加よりも適していると考えられる。</p> <p>① 計画の対象となる議案が、多くの例外があり、よりフレキシブルな対応が必要なとき。</p> <p>② ステイクホルダー間の話し合いの機会が今まで、ほとんど見られないとき、ステイクホルダー間ですでに紛争が起きているとき</p> <p>③ 人々の関心がどこにあるのかが定かでないとき</p> <p>そして、早い段階からの参加を行う場合は、事前にファシリテーターなどが議論を整理しておくことが非常に重要である。</p> <p>また、代替案とその環境評価を提示し、参加の場においてそれを提示することにより、ステイクホルダーは新しい情報を得られ、また科学的な情報を提供されることにより、間違っただけの思いこみを解消することが出来、また、各ステイクホルダー間で議論の機会がもてることなどから、ステイクホルダー間の環境紛争の防止に効果が期待できることが明らかになった。</p>					
キーワード FA	タイ	戦略的環境アセス	環境評価	参加	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	Public Participation in Wastewater Treatment Planning in Thailand -Experimental Stakeholder's Meeting in Amphawa District-							
	著者名 <sup>GA</sup>	Mihoko Matsuyuki, Mizuo Kishita 他	雑誌名 <sup>GC</sup>	Proceedings of 27 <sup>th</sup> Annual Conference of International Association for Impact Assessment					
	ページ <sup>GF</sup>	11 月発行予定	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>								
	書名 <sup>HC</sup>								
	出版者 <sup>HB</sup>		発行年 <sup>HD</sup>					総ページ <sup>HE</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>								
	書名 <sup>HC</sup>								
	出版者 <sup>HB</sup>		発行年 <sup>HD</sup>					総ページ <sup>HE</sup>	

#### 欧文概要<sup>EZ</sup>

This research is collaborative research between Meisei University and Mahidol University. It is divided into two parts.

##### (1)Workshop on Strategic Environmental Assessment in Thailand.

Joint-workshop on “Introduction of Strategic Environmental Assessment in Thailand” was held three times. Thai participants made presentation on the implementation of SEA in Thailand and Japanese participants made presentation on implementation of SEA in EU and Japan. The hypothesis “SEA can contribute on avoiding conflict on environmental issues” were developed thorough the discussion of the workshop.

##### (2)Experimental Meeting at Amphawa District of Samut Songkhro Province

Stakeholders' participatory meeting in which SEA's elements, alternative plans and their environmental impact were explained and discussed, was held on experimental basis. Meeting A: participation from earlier stage and Meeting B: participation from later stage were held and questionnaire survey to participants before and after meeting and contents of discussion were analyzed.

From the analysis it was founded out that though participation from earlier stage can provide alternative plans and their impact on environment and data on abstract level and participants' are required to spend on for longer time, it is more appropriate in case of the following cases;

- (1) The issue on discussion has much exceptional cases
- (2) There has been no chance for discussion among stakeholders so far, or there is conflict among stakeholders
- (3) The points which stakeholders are interested in is not sure.

Additionally, it was revealed that participation can prevent conflict among people/stakeholders.